

尾ノ上の風

第 20 号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

尾ノ上サミット開催される

先週1月28日（火）に尾ノ上小PTAによる尾ノ上サミットなるものが開かれました。参加者は、5年生6年生の子どもたち。

PTAが昨年から企画しているもので、子どもたちにPTAに関心をもってもらって、どんなことがあったらもっと尾ノ上小が楽しくなるかと投げかけたのが昨年でした。2回目の今年は、子どもたちの夢を応援しようと企画し、子どもたちが夢を考えていく際に、実際に話を聞いてみたい人についてアンケートを実施し、その結果をもとに吉田会長が進めていきました。

サミットでは、平成元年度と令和元年度に調査された「子どもたちがなりたい夢」の1位を予想して比較したり、自分たちのアンケートの結果を見ながら考えたりしていきました。令和元年度に男子のなりたい職業1位になっている「YouTuber(ユーチューバー)」が30年後も1位になっているかと投げかけて、その理由を子どもたちから発言してもらいましたが、それぞれに理由があつてなるほどと思いました。最後は、今どんな夢をもっているのかを何人かの子どもたちにみんなの前で発言してもらいました。自分から手を挙げて発表した姿は大変立派でした。夢をもっている子どもたちが多かったのですが、まだ夢がはっきりしていない子どもたちにとってもいい機会になったと思います。

今回の子どものアンケートをもとに、今後PTAで講演会をする人を決め、6年生が卒業しても聞きにきてもらえるよう設定されるそうです。どなたが子どもたちの前で、夢を語ってくださるのか、今後が楽しみです。



吉田PTA 会長の話を聞く子どもたち



PTA 会長から子どもたちに質問が飛ぶ

朝の登校のようすから

今年は暖冬ですが、天気の良い朝は案外冷え込んでいます。正門や東門に立っていると地域の方や交通安全で付き添ってくださる方、お子さんを送ってこられる家族の方ともお話する機会があります。子どもたちの挨拶が「とても自然になった」「元気に挨拶をする子が増えた」と言っていただと本当にうれしく思います。

中には黙って通り過ぎる子どももいて、「朝ご飯を食べてきたかな」「寝る時間は遅かったかな」などと声を掛けています。また、ポケットに手を突っ込んだまま登校してくる子には、「つまずいて手をつけず顔を打った子どもを今まで20人位は見たかな」などと声かけをして注意を促しています。

早寝、早起き、朝ごはんを済ませてきた子どもたちは、やはり元気がいいなと感じています。

造形展のご案内

子どもたちが図画工作の授業で取り組んできた作品を一堂に集めた校内造形展が、図工室で2月17日から29日までの予定で開催されます。また、これに先立って熊本市内の小学校の子どもたちの力作を展示した「第40回 熊本市造形展」が2月7日（金）～16日（日）期間に、熊本市動植物園 資料館で開催されます。大人の方は動物園の入場料がかかりますが、熊本市の子どもたちは名札をつけていけば無料です。

見るだけで楽しい作品がいっぱいあります。ぜひ、造形展を見て、動植物園で遊んで帰られてみてください。

ちょっと お知らせ

今回の学校だよりは、安心安全メールでもPDFファイルで添付して配信しております。ペーパーレス化が可能なかを試行する取り組みのひとつです。

こんにちは！お仕事&授業拝見33 1年2組 国語 中村由紀子先生

中村先生の授業を参観しました。先生の授業を見て感じたことは、

- ①個別の支援が必要な場面が多いにもかかわらず、表情豊かに一斉指導をすすめた
- ②視覚化した提示と楽しいクイズ
- ③先生のはつらつとしたパフォーマンス力などが特に素晴らしいと実感した授業でした。

授業が始まるとひらがなのスキル学習をされました。「今日は学校にまつわるひらがなを書くよ」と伝え、先生が口頭で言った言葉を聞いてノートに書き取るのです。学校、先生など案外発音を文字にしたとき書き間違いやすいものです。国語の時間に毎回これをやっていればひらがなで書く力がつくし、作文力に生きてきます。

本時の活動に入ると、おもちゃのイラストを見せて「おもちゃ」と大きくひらがなで板書すると子どもたちは騒然として指摘し始めました。意図的に間違っただけで提示されましたが、先生の受け答えの表情が自然で関心が一気に高まりました。しかし、1年生の集中力は本当に短い。すると、先生は電子黒板に、カードを写真に撮ってクイズを提示。

「おち口」の口に入る言葉を「や、ゆ、よ」のカードを持ってどれかと聞くと再び元気よく手が上がりました。電子黒板に示した上に先生が「や、ゆ、よ」のカードを画面にかざして1回1回読ませられ、デジタルとアナログの良い組み合わせだなと思いました。カードを差し替えて「としゆかん」「としよかん」と読ませると子どもたちはとても喜んで読んでいました。楽しい学習を工夫されていた1時間でした。



先生クイズに熱中する
1年2組の子どもたち



中村由紀子(なかむら ゆきこ)先生 尾ノ上小1年目

【中村先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

小学校1年生のころから先生になりたかったのです。というより、もの心ついたときから先生になりたかったみたいです。

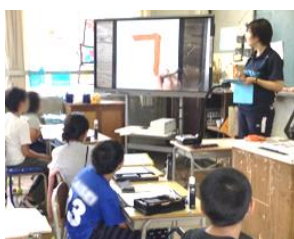
こんにちは！お仕事&授業拝見34 3年2組 書写 石井先生編

石井先生の授業を参観しました。先生の授業を見て感じたことは、

- ①書写の指導事項が明快で、書写の時間に1対1のコミュニケーションを意識して指導
- ②書写指導での工夫が1時間の授業の中に満載
- ③ICTでの視覚支援と動作の組み合わせによってイメージ化を図り集中を生み出していることといった特筆すべきよさがありました。

例えば、グループごとに「日」の字を一画数ごとにバラバラにしたパーツを配りミニホワイトボードに並べさせました。これは簡単だろうと思いましたが、手本を見ながらでも意外と子どもたちが並べられず難しかったようです。先生が実物投影機で電子黒板に映してパーツを動かして見せると、縦画の下の方を出した方がよいといった反応が出て、子どもの集中力がアップしました。自分たちも実際に並べているからこそ、「どこらへんが難しかったですか」「どこを直せばいいですか」といった先生の質問に考えながら答えることができました。教え込むのではなく、子どもに手本と見比べさせて発見させたり、発言させたりしていました。

また、指導したいポイントをうまくまとめた動画を自作し、繰り返し自動再生して見せたのもアイデアだなと思いました。「折れを書く時にこんな注意があるというのはどんなことかな」と聞くと「一度止まってカクッ」という子どもたちが覚えやすい言葉が生み出されたことにも表れていました。その後、筆先がどこを向いているかを押さえて、動きをイメージしやすい言葉にしながらい実際に書いていきました。子どもたちも集中力を切らさずに一生懸命に取り組んでいた1時間でした。



画のパーツをならべて完成させる3年生(上)と動画を見て、イメージをつかむ様子(下)



石井 千陽 (いしい ちはる)先生 尾ノ上小1年目

【石井先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

大学に行くように言われたことも理由の一つですが、自分が通っていた学校にも特別支援学級の友だちがいて、どうやって勉強をしているのか興味があつて教育学部に入学しました。その後、臨時採用の先生を経験して教師をやりたいと強く思うようになりました。